

『宮津農水商工観連携会議（仮称）』設立趣意書

宮津市における、製造業、卸売業、小売業の出荷額・販売額は、平成初頭をピークに、昭和40年代から50年代の水準に落ち込み、地域産業が衰退していることから、産業の建て直しが最重要課題となっています。

こうした中、平成26年度は、京都縦貫自動車道及び舞鶴若狭自動車道が全線開通することから、この機を捉えて宮津市の「海のみやこの物語」プロジェクトとして、また文珠、府中地区については、京都府の「海の京都」構想に連動して、官民一体となり魅力ある観光まちづくりが集中的に進められるなど、人とモノの流れが大きく変わる節目の年であり、産業の建て直しを図る大きなチャンスOfYearであります。

本市は、北近畿における代表的な観光地であり、年間270万人の観光客が訪れるポテンシャルを持っています。観光は、旅行業、宿泊業、輸送業にとどまらず、飲食業、小売業、さらには農林水産業、製造業などさまざまな産業への経済波及効果のある裾野の広い総合産業であります。

本市の産業を建て直し、持続的に発展させていくためには、本市を訪れる観光客を増やし、おもてなしする中で特産物を購入いただき、そして地元のもの食べていただくなど、外からより多くの「外貨」を稼ぎ、稼いだ「外貨」をできる限り市内で消費・再投資しながら、地域の経済力を高めていくという自立循環型経済社会構造へ転換していくことが重要となっております。

これらを実現するため、市内の産業が連携し、一丸となって「6次産業化」、「地産地商（消）」、「地産都商」等を強く推し進めるとともに、市内産業の活性化を図るために、『宮津農水商工観連携会議（仮称）』を設立するものであります。

平成26年3月13日

宮津商工会議所

会頭 今井 一雄

宮津市

市長 井上 正嗣